

その後は10グループに分かれてディスカッションを行いました。発表した奨学生や保護者、ボランティアで参加した高校生もディスカッションに加わり、①発表を受けての感想、②寄付金の集め方、③お金以外でできることなどについて、自由に意見交換を行いました。グループディスカッションでは、主催者・寄付者・奨学生・高校生ボランティア・関係団体役員など、幅広い人たちがグループに参加して、

率直に意見交換を行いました。多くのグループでは、高校生のリアルな声が直接聞けて有意義だったという意見が多く、今の高校生は自分の目標をもって立派だという声も複数ありました。今後の取組については、まずはこの状況を多くの人から知ってもらうことが必要であり、SNSや口コミ、マスコミなども利用しながら、広めていくという意見も多くありました。また、この問題は個人や家庭の問題では

なく、国全体や地域の中で考えていくべきとの意見もありました。自分には関係ないではすまされないと思います。



グループディスカッションの様子

奨学生の発表を聞いて感じたことや応援メッセージ

58名の方からアンケートにご協力いただき、本当に心のこもったメッセージをいただきました。ありがとうございました。誌面の都合上、一部だけ紹介します。

発表をされた方全てが次のステップに向けての想い、考えを持っていることに感動しました。大勢の前で自分の言葉で感謝を伝えることは相当の勇気が必要だったと思います。これからの生活に活かすことと思います。(50代)

奨学金の使い途は、勉強だけではなく部活に使っている学生が複数いて意外でしたが、見識を深めたり、心を豊かにすることにもつながるため、有効なことですね。みなさんの発表を聴いてあらためて教えられました。(50代)

自分の目標をきちんともち、日々それに向かって努力されている様子を知り、うれしく思いました。「支援を受けて生活に変化が生まれ、感謝している。」という言葉に応援してよかったと思った。(60代)

特に施設で育った方のお話には感動し涙が出ました。社会福祉士はとても立派なお仕事です。是非夢に向かってがんばってください。応援しています。(50代)

奨学生の報告を聞き、私達、大人は日本の将来に希望を持つことが出来ました。みなさんは“未来”そのものです。自分らしくこれからも頑張ってください。(40代)

学ぶ機会、楽しい学生生活を送る機会は平等であるべきであるはずなのに、そうではない現実を改めて知りました。夢をもって頑張っている皆様の少しでもお力になれるならこちらこそ感謝したい思います。(50代)

本当に具体的な目的・目標を持って勉学に励んでいることがわかり、すばらしいと思いました。そして、そういった若者が新潟にいることをうれしく思いました。(50代)

今回すばらしい志を持った高校生の夢に向かう言葉を聞いて感動するとともに、自分への激励になりました。これからも夢に向かってがんばってほしいと思います。(10代)

新潟県奨学金ネットワーク通信第5号より転載



人と地域と未来をつなぐ会報誌

創刊
準備号

2024.10 発行

「わたしの夢」

高校奨学生の成果報告会

特集

会報誌の創刊に向けて

新潟ろうきん福祉財団は2022年度に(一社)新潟県労働者福祉協議会が取り組んでいただいた、高校奨学金給付事業拡充に向けた寄付活動により、多くの新潟ろうきん会員団体の皆様から、4億円を超える寄付をいただきました。おかげさまで、2023年度から高校奨学金の募集枠を「上限100名」に増やし、より多くの高校生に向けた支援を行うことができるようになりました。皆様からのご理解とご協力で改めて感謝申し上げます。

この度、寄付をいただいた皆様へ、高校奨学金事業に関するろうきん財団の活動をお知らせするツールとして、会報誌を発行すべく、創刊にむけた準備号を作成いたしました。

「ろうきん財団の資産」は貸借対照表にある「数字(金額)」だけではありません。奨学生および保護者や高校の教職員、NPO等の助成団体、寄付者である労働組合や組合員、そして、財団が実施する事業を支えていただいている多くの人や団体、これらすべての関係者も財団の資産であり、さらには、関係者同士のつながりも資産と言えるでしょう。財団にかかわるいろんな人の笑顔や、関係者同士の「つながり」が紙面を通して少しでも見えるようにできれば…そんな気持ちを込めてタイトルを「やさしくツナガル」としました。多くの方からこの準備号をお読みいただき、感想等をお寄せいただければ幸いです。

高校奨学生の成果報告会

わたしの夢

奨学生11名が自分の夢について堂々と発表しました。

2024年3月3日(日)新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで、高校奨学生による成果報告会が開催されました。本集会は新潟県奨学金ネットワーク(代表:江花史郎)と未来応援奨学金にいがた(理事長:土田雅穂)の2つの団体が、実行委員会を結成して開催したものです。当日は、定員100名を上回る111名の参加があり、ほぼ満席となりました。ネットワークの事務局としても、この集会に備えて、昨年から準備を重ね、「ほんとに発表してくれる奨学生が見つかるかな?」「この集会に多くの人が集まってくれるかな?」「来賓の県知事はきちんと奨学生の発表を聞いてくれるかしら?」など、多くの不安がありました。無事、終了できてほっとしています。特に新潟ろうきん役職員から多くご参加いただきました。御礼申し上げます。



会場はほぼ満席となりました。

新潟県奨学金ネットワーク石本事務局長(新潟県労協専務理事)の司会で開会し、実行委員長の江花弁護士挨拶、来賓の花角新潟県知事のご挨拶の後に、中川副代表が10分ほど「奨学金問題の現状と課題」について、スライドを使い、教育費の値上がり、勤労者世帯の収入低下、その結果としての奨学金利用者の増加など社会的構造の問題や返還時の対応などについて説明を行いました。いよいよ、

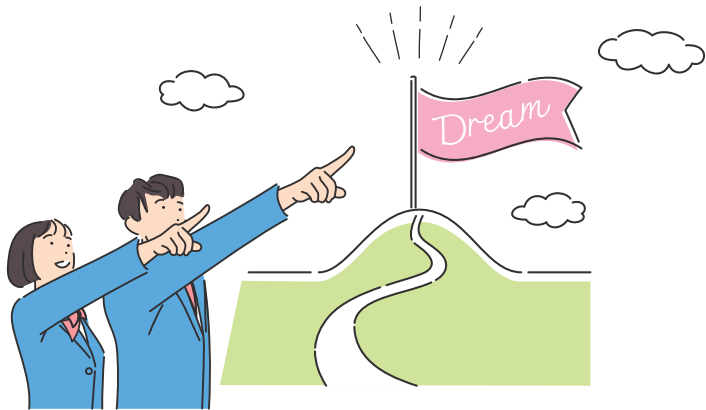
奨学生の成果報告会の開始です。今回は、新潟ろうきん福祉財団の奨学生が5名、未来応援奨学金にいがたの奨学生が6名の合計11名から、発表してもらいました。事前に800字程度の作文を書いてもらい、それを読み上げる形での発表でした。県知事からも奨学生全員の発表を聞いてもらいました。きっと感じるものがあったと思います。(終面へ続く)



江花実行委員長



来賓の花角知事



エンジニアをめざしている。奨学金はTOEICの参考書購入に充てた。今後の海外研修費用にも充たしたい。

4つのクラブ活動に参加できた。奨学金で参考書を購入し、**国立大学医学部に推薦合格**できた。

水泳部で活動している。タイムもすこずつ上がってきた。

母に楽をさせたい。奨学金をもらえてアルバイトを辞めることができた。

動物看護師になって飼い主と動物の心に寄りそう仕事がしたい。

西欧史の研究職をめざしている。塾に行かず独学で受験を乗り切れた。

感動する舞台は、役者だけではなく裏方で支えている人達がいてこそなんだと気づいた。**舞台やライブの音響スタッフ**になりたい。

発表を受けて

奨学金が奨学生の勉強や部活動などに活用されていることが伺われ、そのおかげもあって充実した高校生活が送れていることをうれしく思いました。そして、発表者全員が自分の夢を持っており、その夢に向かって進むことの決意が述べられ、深く感銘を受けました。その夢の実現に奨学金が役立っていることも強く実感できました。



奨学金で**英語の教材**を購入した。希望していた**弓道部**に入部できた。

奨学金で**英語の教材**を購入した。シャドーイングのトレーニングをしている。

ものづくりの知識と技術を学んで、**3DCAD**や**3Dプリンター**で設計し、製作が出来るようになりたい。

家庭の事情により、幼い頃から児童養護施設で育ち、支援を受ける側として福祉の大切さに気づいた。**社会福祉士**をめざしている。

2024年度の高校生奨学金給付事業について

応募状況について

2024年度の募集にあたっては、昨年と同様に2月中に中学3年生全員にチラシを配付(総数はおよそ2万枚)するなどの広報活動を展開してきました。募集枠を拡大して2年目ということで周知が進んだこともあり、**応募総数は昨年を上回る338人(要件が整っていないなどの理由で15人が無効のため有効人数323人)**となりました。

中学3年生にむけた周知用チラシ▶
県内の中学校へ配付をお願いしました。



■在学高校別応募状況

	2024年度			2023年度(参考)		
	学校数	応募者数	採用数	学校数	応募者数	採用数
県立高校(市立高校・国立高校含む)	80	201	68	77	165	59
うち特別支援学校(聾学校・盲学校含む)	(14)	(28)	(19)	(13)	(21)	(13)
うち中等教育学校	(3)	(11)	(3)	(2)	(2)	(1)
私立高校	23	137	32	17	106	41
合 計	103	338	100	94	271	100

採用状況から見える「厳しい家庭状況」

採用状況については、単純に両親の収入だけを採用基準としていますが、採用ラインが前年よりも相当程度低下し、より厳しい家庭状況が明らかになっています。さらに家族状況で見ると、やはりひとり親家庭(両親ともいない家庭を含む)の割合が圧倒的に高く、採用者の9割を占めています。あわせて、特別支援学校の生徒が採用者の2割弱となっていて、やはり高めの占有率となっています。また特別支援学校の採択者19名のうち、ひとり親家庭(両親ともいない家庭を含む)が16名となっており、占有率は84.2%と極めて高くなっています。この2つの要因が重なる家庭の状況は、簡単に想像することはできませんが、非常に苦しいものだということは間違いなく、ろうきん財団の奨学金がそんな子どもたちの役に立つことを願わずにはいられません。

全ての生活困難家庭をサポートすることはできないかもしれませんが、この奨学金が高校生活を迎えるに当たって、なんらかの支えになれるよう、この事業を継続させていきたいと思っています。

■学校種類別の採用状況

	公 立		私 立		合 計
		(特別支援)		(通信制)	
採択者	68	19	32	4	100
不採択者	126	9	97	9	223
合 計	194	28	129	13	323

通信制(私立)の件数が増えているのは、就学環境の多様化というべきか、それとも、この選択をしなければならぬ状況なのか?

注1) 総申込数(338人)から年収基準などの要件外(15人)を除いた申込数は323人。

注2) 通信制は公立高校(2校)にもあるが申込はなかった。

■家庭状況別の採用状況

	母子家庭	父子家庭	その他※	両 親	合 計
採択者	79	4	7	10	100
不採択者	194	5	2	22	223
合 計	273	9	9	32	323

昨年度に続き「母子家庭」からの応募割合が高い。

両親はいるものの、病気療養等で就業ができず、苦しい状況の家庭が相当数あることがうかがえます。

※「その他」には児童養護施設に入所している学生が含まれます。